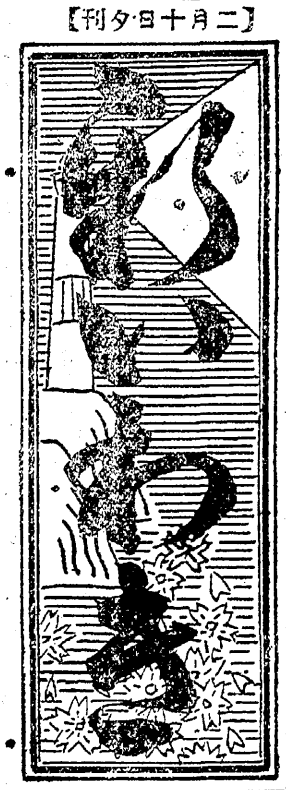
【二月十日夕刊】



休日 日曜大祭日
一ヶ月 廿五錢
郵税 十五錢
一部 二錢
廣告料 一行四〇錢 場所指定廿錢増
發行兼編輯人 印刷人 半谷政喜
發行所 福島縣平南町卅 新いはき新聞社

# 手續簡略を希望する中商工業の資金融通

## うんざりする組合組織に一般から簡便な方法をと

縣が政府の考策に基づく本縣下に於ける福島、若松、郡山、平の四大都市に各種同業組合の組織を奬め中商工業者の金融を計り商品その他營業資金の

**融通を** 行はんとする施設計畫は各當業者に相當喜ばれ平町にも弗々此の最寄協議を見せてゐるがこれが貸出に當つての繁錯な手續を何々同業組合とする數ヶ團體を

**創設せ** しめられることが容易ならぬ苦惱とされ昨今に於ける一般當業は斯うした資金融通を政府に於てなす場合も少し手續きを簡略にされるか乃至は

**信用組** 合等の既設機關を經由する簡便な方法を取つてもらひたいと希望してゐる模樣である

# 水産製造業に大福音

## 蒲鉾竹輪類の防腐液

### 渡波水産校福岡教諭の發明で試驗成績頗る良好

食用肉菜類の腐敗を防止する人體に無害な藥液は豫ね學者間に研究されてゐる所で數年前米國で發明せられた水に溶解するブレザーバリン撒布及び漬水の如き

**本邦各** 地に其の實際使用を試みられたるも割合に効果が薄く實用されるに至らなかつたが今回宮城縣立渡波水産學校教諭福岡國男氏の發明に係る竹輪蒲鉾類の防腐液は絶對人類には

**無害の** もので最近の試驗成績によれば攝氏二十度の温室に於て四日間に腐敗する竹輪が同液を塗用すれば二週間も經過して何等變化なく食膳に供されたので目的を

**完成し** たる右福岡教諭は近く同液の特許を申請することになつたが石城各濱では同液の發明を喜び卒先して使用を試むべく漁業組合その他から照會中であると

# 婦人講演と座談會

## 明十一日マルトモビルにて

平町字鎌田町の金成醫院夫人その他町内に於ける同志夫人連によつて組織された婦人講演と座談會は明十一日の紀元節を卜して午後一時から四丁目マルトモビル樓上に發會式を擧げたる後第一回の講演と座談を開かれる筈であるが講演は南町日本基督教會牧師中村月城氏の「家庭生活の原理」と題するものであると

# 縣下高女の入學考査

## 磐城高女は二十七日から三日間

中女學校の入學期に切迫し各小學校では志望生徒の受持教員を初め父兄も共に兒童の激勵勉學に努めてゐる縣下高女七校に於ける本年の定員は左記の如く總數一千百三十名で入學考査期日は磐城高女二十七、八、九の三日間願書締切三月十九日限り其他の各高女は願書締切三月十五日で二十七、八の兩日入學考査を行ふと

▲磐城高女二百名、相馬高女百五十名、安積高女百五十名、白河高女百名、福島高女二百名、補習科三十名、會津高女二百名、喜多方高女百名

# 新舊の混合決濟で愈よ行詰つた財況

## 質店にも深刻な不況の影

### 在庫品が二三割方殖える

石城地方は陽暦の歳末年始から陰暦の暮れに打重なる混合決濟の土端場に直面した昨今愈よ行詰りの極を見せて町も村も共に四苦八困の狀に陷つた

**近頃殊** に目立つものは花柳界の慘めさで平町各質店に映る其の裏書は從來藝妓連の質草と云へば少なくて五圓以上であつたものが一、二圓の物を抱え込む

**實況を** 畫き而かもそれが一二回水を潜つた什立替が少なくない之れに引かへ是れまで相當質店を賑はした官吏家庭のそれが日頃殆んど絶無になつて俸給生活と云へば

**會社關** 係者に決まつた樣になつてゐる次に質草では裝身具類は甚だ少なく衣類を主とするものの中に町方の正月である去一月にかけて子供に晴衣を着せたい親心から

**換品の** 入質に利拂ひも多く返り質も割合少なくなかつたが此頃では全然居据はりの狀態で前年の同期に較ぶれば二三割方在庫品が多く現在の模樣では來る四月頃からでなければ思ふ樣な動きがなからうと某質店が語つた

# 北支高氣壓から吹く寒波が主因の寒さ

## それも支東の低氣壓の爲

### 漸く緩和され寒も大体低

石城地方に於ける本年の冬期は近年になく雨雪が多く且つ寒氣も酷烈で二十年此の方ない現象だと云はれてゐる殊に去八日の寒氣は今年の最低温度

**氷點下** 七度六分を示し前朝より五分を下る寒中の最低温度であつた去一月十一日に於ける氷點下六度七分を凌駕し本年中の最低を見せたが此の主因は北支那の高氣壓より吹き

**出した** 寒波が漸次移動して來たもので其の爲め寒さ戻りの狀態をなし居るも如上の高氣壓も九日朝には東進の傾向を呈し支那東海南部に低氣壓が發生したので

**斯した** 酷寒は漸く打消され今十日の雪となつたもので本年の寒氣は大抵こんな所であらうと小名濱測候所の觀測である

# 建國祭と旗行列

## 明日平町千五百名の小學生

平町の在鄕軍人分會及び青年團の主催に係る建國祭は既報の如く明十一日の紀元節に於て縣社子鍬倉神社に式を擧げ午前十一時から町内第一、二、三小學校尋常六年生以上約一千人それに商業學校生徒の希望その他を參加する旗行列が田町通りから大工町を經て本町に移り各町を西部に向つて搔槌小路に出で町役場前に落合ふ午後一時萬歳三唱の後解散する筈であるが行列參加千五百名以上に達する見込で相當の賑はひだらうと

# 幼兒が爐邊で大火傷

## 母親の不注意から

石城郡磐崎村の上湯長谷梅ケ平居住相馬郡駒ケ嶺村の高田字原田星泰市二男秀雄(二つ)は去八日午前十一時頃居宅爐端に於て就寢中覆衣に火がついて全身に火傷を負ひ悲鳴を聞つけた隣家の園部まつが駈つけ火をもみ消して最寄醫師の手當中であるが生命危篤である

# 年暮れる寒空の中に同情される哀れな二組

## 娘伴れの一ッは旅費を惠まれて歸國一組は病氣で救療

打續く財界不況の難關を越さうとする惱みは無産者よりも寧ろ有産者に零落の悲哀を止めてゐるが行詰る舊年末に接した此の頃遠慮なく悲しい

**境遇を** 訴へ得るものは無産階級のそれで平町にも斯うした境遇者が二人あつた其の一人は去九日午後三時過ぎ平驛に下車した安達郡荒井村の五百川生れ高橋丑之助(六七)で長女のけん(三七)を伴ひ

**失職の** 爲め食を得るに由なく各地を經廻つたが思ふ仕事がない爲め全くの無一文で平署に困苦をあかし歸國旅費を惠まれて立ち去つたが又

**山形縣** 西村山郡寒河江町一一八生れ森谷森藏は最近まで双葉郡浪江町に働いてたが持病の喘息で仕事が出來ず鄕里に歸らうとする途上旅用少なの身に進退谷まり

**平町役** 場から小野新町までの汽車賃と食料を給されて乘車の際跨線橋の階段で卒倒し同町の隔離病舍に收容された

# 俳句

## 立春 (六)

滿壽莊主人

夕月に子供のあそぶ餘寒かな　等蝶

寒中はとても寒かつたので子供等も家にばかり引籠つて怠屈がつて居たが餘寒となれば寒さは寒くともさすがに子供は風の子なれや夕月の光りを浴びて嬉戯して居る何とある樂しさうな擧動を見なさい

誘はれて寢るや餘寒の壁隣り　右耳

冬の間は内職の夜業正月は正月とて夜の樂しみも多かりし爲つい夜更しをしたものだが餘寒の此頃となつては大した夜業もなく又樂しみも少ないのでつい壁隣りと聲を掛け合ふ樣になつたどうです餘寒とは云へ隨分寒いぢやありませんか何かは樂しみでもイヽエもう所在なして困つて居るんですイヤ私共も同じ事いつそ寢ようかと思案してる所でイヤ御もつともされば私共も寢るとしませうか果報は寢て待てと申しますから左樣々々私共でも寢みませうどりや門の戸でもしめるかなぞと云ふ境地なるべし